

## 地理関連学会連合第4回総会議事録(案)

開催日時：2002年3月29日(金) 11:00~12:30

開催場所：日本大学文理学部百周年記念館2階会議室

### 1. 出席者

#### 【運営加入学会】

地理科学学会(中山 修一)  
地理情報システム学会(高阪 宏行)  
(社)東京地学協会(田辺 裕)  
東北地理学会(阿部 隆)  
日本生気象学会(福岡 義隆)  
日本地形学連合(岩田 修二)  
日本地理教育学会(山口 幸男)  
日本地理学会(村山 祐司)

#### 【賛同学会】

経済地理学会(松橋 公治)  
人文地理学会(石川 義孝)  
水文・水資源学会(中尾 正義)  
日本環境共生学会(松岡 勝博)  
日本国際地図学会(細井 将右)  
日本水文学会(鈴木 祐一)  
(社)日本雪氷学会(岩田 修二)  
日本地域学会(加賀屋誠一)  
日本地質学会(天野 一男)  
日本陸水学会(佐藤キエ子)

地理関連学会連合議長(野上 道男)

オブザーバー(次期日本地理学会渉外専門委員長)(山本 健兒)

書記役(日本地理学会渉外広報専門委員)(加藤 幸治)

### 2. 開会の辞

野上 道男 地理関連学会連合議長より議事に先立ち、出席者の自己紹介が行われた。

#### 【議事】

##### 1. 司会の選出

野上道男議長より村山祐司が推薦され、承認された。

##### 2. 書記の選出

司会より加藤幸治が推薦され、承認された。

##### 3. 審議事項

##### 3-1. 地理関連学会連合主催の第2回シンポジウムの開催について

まず連合総会後に行われる地理関連学会連合主催の第1回シンポジウムの準備等について阿部隆

より説明があった 第1回シンポに続いて 第2回のシンポを来年もしくは再来年に行いたいこと、またそのための助成金申請を連合名にて行いたい旨が提案され、承認された。また、助成金申請や開催準備にはある程度柔軟に対応することが必要であるため 第2回シンポジウム開催については、役員とりわけ議長・副議長等執行部に一任するという形で進めていくことが確認された。

### 3 - 2 . 国際地理学連合 (IGU)・地域大会 (2002) ならびに本大会 (2004) への取り組みについて

IGU については日本学術会議第4部地理学研究連絡委員会(地理学研連)が担当するものではあるが、連合としても何らかのサポートをしていきたい旨が提案された。田辺裕 IGU 副委員長から、IGU 地域大会(2002; 南ア・ダーバン)の準備状況等、また IGU 本大会(2004; 英・グラスゴー)の予定等が報告された。2004 年には IGU から exhibition を要請される可能性があり、もし要請があった場合、今後連合で対応を協議してほしい旨の説明があった。連合としては、今後も IGU への取り組み・対応に積極的に関わっていくことを確認し、今後も協議していくことを確認した。

### 3 - 3 . 英文日本地誌編集事業について

前回総会以降、英文日本地誌の編集事業について検討してきた中山修一より目次案・スケジュール案等の説明があった。地域割を基本とする目次案等に対する具体的意見とともに、人的・金銭的資源の限られる連合において実際に出版への取り組みが可能であろうか、との意見も出された。人的・金銭的サポートを外部(出版社や各学会等)に求めていく上でも編集方針等の具体化は必要であり、地誌の内容については検討を進めながら、一方で出版形態についても継続して検討していく必要があるとの意見が出された。提案学会に、出版物の内容だけでなく、出版のための編集委員会構成や出版費用に関する計画をつめてもらい、連合として出版企画をサポートする方向で考えたらどうだろうか、という意見も出された。

### 3 - 4 . 役員(議長, 副議長, 運営委員)の改選について

役員改選の時期であるが、本総会において新役員等を決めることは困難であるので、6月初旬頃までに各学会で協議等して次期運営委員を選出し報告してもらうこと、議長・副議長については運営委員の互選によって決定してもらうことが提案され、原案通り、承認された。

## 4 . 報告・連絡事項

### 4 - 1 . 日本学術会議第四部(理学)の再編と科研費の分科細目等の変更について

日本学術会議第四部(理学)における再編、ならびに平成15年度科学研究費補助金の分科細目の変更とキーワードの新設等について野上道男より説明があった。総合領域の分科・地理学における細目・人文地理学と自然地理学が「統合」され、細目・地理学のみになった。事実上は自然地理学だけが総合領域に残り、人文地理学は人文社会系・人文学・人文地理学・人文地理学に移行され、学術会議レベルでは自然地理学と人文地理学は完全に分離されたこと、これによって科学研究費の申請件数等が減少することは地理学全体にとって望ましくない状況であり、科学研究費申請数増加のために協力されたい旨が報告された。

### 4 - 2 . 各学会からの報告・連絡

各学会の今後の予定等が報告された。

以上で議事は終了し、書記、司会の解任がなされた。

【閉会の辞】

野上 道男 地理関連学会連合議長より